リレーインタビュー

矢板の未来を紡ぐ

コグチ生花・造花店
小口眞里さん

矢板生まれの矢板育ち。学生時代に千葉県で一人暮らしをしたことが、矢板のまちの優しさをあらためて見直すきっかけになったと。ご両親と兄妹３人、兄のお嫁さんと、みんなで力を合わせて家業に精を出しています。外に一度出て、再び戻ってきた矢板の地で、女性の視点で感じたものは？前回の、中沢啓悦さんからのご紹介です。

まわりの人に支えられて　……日常に花があるように、優しさがどこにでもあるまちに

■矢板を離れたことで見えてきたもの…

家族全員が一緒に働いているとお互いの気持ちが分かるので、好きなことを言い合えるのですが、反面これで十分ということがないので、時間のけじめをつけるのが難しいですね。

家業を継ぐつもりはなくて、普通に就職できるよう経営情報学科に進みましたが、一人暮らしをして、食事を自分で作ったり、病気になったりしたときに、つくづく親のありがたみを感じました。そして、ときどき家に帰ると、親が一生懸命頑張っている姿を見てなんとかしてやりたいと思うようになりました。

一度外へ出てみて、周囲の人がみんな助け合って暮らしていた矢板は住みやすく、優しい町だったなと思えるようになり、それで、戻って家業を手伝うのも良いかなと…。

子どものころ、ソフトボールやお囃子（はやし）など、地域の関わりがとても多く、面倒見てくれる大人がまわりにたくさんいて、そんな子ども時代を過ごせたことも背景にあるのかもしれません。

■家業の中に蓄積されている基本の技

十年ほど前に戻ってきたとき、花屋なら当然持っているべき基礎知識を学び、挿し花・ブーケ・アレンジなどの国家検定資格を取るために、宇都宮の生花組合が立ち上げた花の学校へ通うことにしました。

そのとき、家業を手伝いながら当たり前にやらされていたこと、例えば切り口を新しくしておく、水をこまめに取り替える、花器をよく洗い清潔にしておくということなどに、きちんと裏付けがあるということ。基本的でありながらとても大事なことだと確認できたことがうれしかったですね。

ただ手伝っているだけのときは分からなかったことが、自分で学ぼうとしている時は素直に入ってくるものなんですね。

■世界花博でカルチャーショック

オランダの世界花博覧会に行ったとき、とにかくいろいろな花があることにびっくりしました。日本で輸入してない花がたくさんあるのです。

オランダは世界で一番花産業が盛んなところですが、市場に行くとバラがバケツに入って、花が開いている状態で売られていました。日本ではつぼみの状態が良しとされ、箱詰めで売られていますからとても驚きました。この違いは生活の中での花のとらえ方が違うからだということが後でわかりました。

ヨーロッパでは毎日花を使うのがあたりまえ。日本とは比較にならないほど毎日の生活の中に花が取り入れられています。そして、花は開いた状態が一番良いとされていて、人にあげる時にはその一番良い瞬間をプレゼントするという感覚なのです。

日本では、花は高級品、贅沢（ぜいたく）品で、長く楽しむためにつぼみのものが好まれるということなのですが、普段の生活の中で、もっともっと当たり前に花を使うようになってくるといいなと思います。

■日本の伝統美・生け花を見直して欲しい

最近では、アレンジフラワーやガーデニングなど欧米風な花とのかかわり方をする人が増え、また、花もスーパーなどで手軽に売られています。花の知識が増えて、昔は花屋しか知らなかったことを一般の人がやるようになって、生活の中に花がずいぶん取り入れられるようになってきています。

でも、その反面、生け花をやる人が少なくなって、日本の伝統が廃れていくのではと心配です。外国では逆に、日本の生け花の簡素で線のきれいなところが好まれ、生け花の人気が高まってきているのですから面白いものです。

テレビに良く出る假屋崎省吾さんなどは、しっかりと生け花を習得したベースの上に自分なりのオリジナルを生み出して評価されています。ですから、もっと日本の伝統文化としての生け花のすばらしさを知って欲しいと思います。

■やさしいまちづくりを…

花にかかわる仕事をしていると、冠婚葬祭いろいろな場面で人とお話しする機会があります。最近、病気で倒れた時に救急車で搬送されても受け入れてくれる病院がないという話をお客さまが切々と話されることが多くなったと思います。

ある方は、それまで通院していた病院に担当の先生がいなくなったので治療ができなくなり、カルテをあげるから好きなところへ行ってくださいと言われたとか。高齢の方だけでなくみなさんがすごく心配しています。

塩谷総合病院の問題もありますし、地域で安心して医療を受けられるということは、矢板の未来を考えたとき、最優先の課題ではないでしょうか？

また、子育て中のお母さんと話すと、犯罪が多くなり、子どもたちの安全の問題が大きな気がかりになっています。

昔、私がそうしてもらったように、地域で大人がきちんと「大人の役割として周りの子どもたちを見守っていく」ということを意識する必要があるのではないでしょうか？

やさしい町であり続けるために…。